

テーマ：「糖尿病透析予防指導のためのチーム作りとその実践評価」

開催の目的：糖尿病透析予防指導管理料の算定開始から1年目の評価の時期を迎えた今、チーム作りから実践事例を踏まえた現在の評価および課題について報告し、CDEとしての今後の活動に活かしていく。

内容の概要：糖尿病透析指導管理料が算定できるようになって2年目を迎えた時期。あらためて腎障害予防のアプローチを考える機会とするため、透析認定看護師からの視点でCDEへのメッセージを紹介していただく。また、実際に算定している施設方の実践報告を踏まえて、参加者個々の疑問に丁寧に答えていくディスカッションを行い、CDEの活躍の場を広げていく示唆とする。

プログラム

午前中の予定

09：40～09：45 開会の辞 貴田岡理事長

09：45～11：00 講演1

「(仮)日本糖尿病療養指導士(CDEJ)について」 演者：和歌山労災病院 病院長 南條 輝志男
(講演時間：75分)

11：00～11：15 休憩

11：15～12：30 講演2

「日本人のための糖尿病食事療法を考える」—食品交換表の改訂とその方向性をめぐって—
演者：杏林大学・第三内科学教室 主任教授 石田 均 (講演時間：75分)

12：30～13：20 会場移動・昼食休憩

午後の予定

第1部 司会 武蔵野赤十字病院 豊島麻美・立川相互病院 菅原加奈美

13：20～14：20 腎障害予防アプローチとしてCDEへ望むこと(講演時間：60分)①

公立福生病院 透析認定士 小出隆子(看護師)

14：20～14：50 糖尿病透析予防指導の実践に向けてのチーム(システム)作り②(講演時間：30分)

千葉県立東金病院 糖尿病看護認定看護師 西原晴美

14：50～15：20 透析予防指導の取り組み実践報告(講演時間：30分)③

泰生医院 糖尿病看護認定看護師 兵頭裕美

15：20～15：50 6か月評価を終えての今後の課題について(講演時間：30分)④

杏林大学病院 糖尿病看護認定看護師 高橋久子

15：50～16：10 休憩

第2部 司会 公立昭和病院 松本麻里

16：10～17：15 携帯端末を利用したディスカッション(講演時間：65分)⑤

(演者の先生4名を壇上に)

17：15～17：20 閉会の辞 貴田岡理事長

研修総時間 365時間(6時間05分) 看護師担当時間 215時間(3時間35分)

(お問合せ先) NPO 法人 西東京臨床糖尿病研究会・事務局 担当 三上竜治 東京都国分寺市本町 2-23-5
ラフィネ込山 No.3-802号

TEL：042(322)7468 FAX：042(322)7478 E-mail:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

補足資料

①の内容

透析指導士から見た糖尿病透析予防指導に対するアプローチとして CDE に望むことを述べてもらいたい。透析指導士としては、予防段階の患者指導としてこんな視点でこのように介入している。また CDE に介入してほしい。糖尿病透析予防指導管理料を算定するにあたって、具体的な指導のポイントなどを紹介していただく。透析導入に至った患者の現状や患者の声などを盛り込み、CDE が透析患者へのイメージとその予防介入の必要性を実感できるような実践報告をしていただきたい。

②の内容

実際にシステム作りに成功した病院の例を踏まえて、どのようにチーム作りをすすめていったのか、また看護師は其中でどのような役割を担っていたのか、看護師として今現在どのような実践をしているのかについて報告していただきたい。

システムを確立するための困難さや工夫また協力を得られたこと、これからとりくむ病院に対してのアドバイスを踏まえて紹介していただきたい。

③の内容

外来での管理料算定事例について、うまくいった例とそうでない例など介入しての評価と、管理料を算定していない時と管理料を算定してからの実践の違いや患者さんの反応など、より実践現場からの生の声を事例報告を交えて紹介していただきたい。チームで取り組むための工夫や困難感などもはなしていただきたい。

④の内容

算定開始してから初めての 6 か月評価の時期を迎えて、何をどのように評価したのか、実際のケースの数やその評価方法（チームカンファの実際）などを実際の実践事例を交えて紹介していただきたい。評価対象の数など具体的な例と外来での実践の工夫なども紹介していただきたい。

⑤の内容

携帯電話を利用し研修参加者が主体的に研修会に参加し、自分の意見を提案できる機会とする。質問は、事前に提案しておくものと休憩時間に紙ベースで参加者から回収したものを使用しディスカッションを進行していく。参加者が、それぞれの異なる施設環境（ハード・ソフト含め）において自分の施設でもこれならできるといふ気持ちになれるように多くの質問に対して講師の先生に返答して頂く。CDE としての新たな活躍の場に期待を持てるディスカッションを目指して進行をすすめる。